

特集 まちづくりの現場から

地域包括ケアシステムの構築

-みんなでつくる福祉のまちづくり-

人口減少や少子高齢化が叫ばれて久しくなりましたが、団塊の世代が75歳以上となる2025年には、さらなる超高齢化社会を迎えることになります。介護ニーズの急速な高まりとともに、2060年には、65歳以上の高齢者1人を、20～64歳の人々が1人で支える社会がやってきます。



地域包括ケアシステムとは

介護保険制度は、2015年の改正で、「必要になったときに支え合える地域を、必要になる以前からつくること」を目標に掲げました。まだ比較的健康な世代も含めて、生活が不自由になったり、介護が必要になっても、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができる体制をつくっていかうというものです。自分たち(自助)で力を合わせて、地域づくり(互助)に取り組み、それを基盤として、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を進めていきます。

これからの介護予防

そもそも介護保険は、「自立支援」を理念とした制度です。しかし、厚労省では、これまでの介護保険のサービスを振り返り、「お世話型」の保険になってしまっているのではないかという課題を指摘しています。「かわいそうだから、やってあげましょう」や「サービスがあるから使う」ではなく、「失われた機能をどのように回復できるか」や「それ以上悪くならないで維持できるか」を考えることが大切であり、サービスありきの支援では、必要以上のサービスが提供され、お年寄りの能力を奪ってしまうことになりかねないと述べています(廃用症候群)。これまで、心身機能の回復訓練に偏りがちだった介護予防事業は、高齢者の居場所と出番をつくり、要介護状態になっても、生きがいと役割を持って生活できる地域の実現を目指します。そのためにも、住民自身が運営する体操の集いなどの活動を、継続的に拡大していく地域づくりが欠かせません。

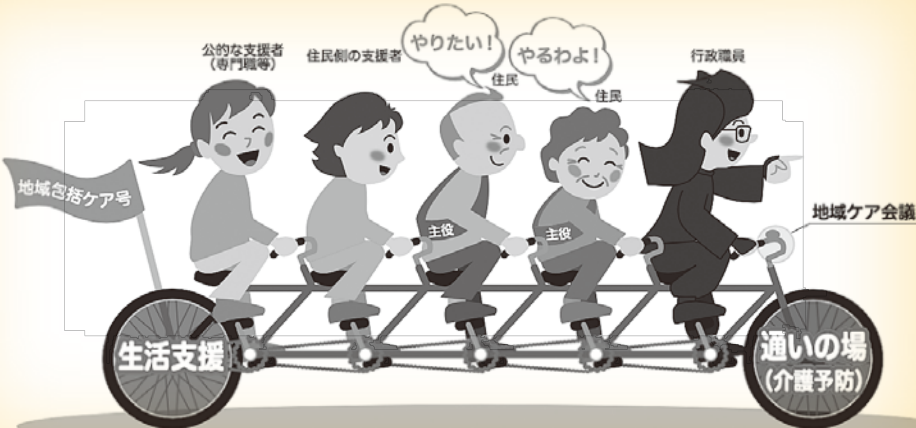


じぶんのことはじぶんで。そして支え合いの地域づくり

一番大切なのは、生活目標をじぶんで決めること。高齢者ケアの3原則として、①自己決定権の尊重、②残存能力の活用、③生活の継続性というのがあります。まずは、自助を基本とし、日頃からお互いを気にかけてい・見守り合い・支えあえる地域が、持続可能な福祉のまちづくりにつながっていきます。地域住民の皆さんや多様な主体が「わがごと」として考え、人と人、人と資源が、世代や分野を越えて「丸ごとつながる」ことで、住民一人ひとりの暮らしの安心と、生きがいのある地域社会を、一緒につくっていきましょう。



■厚労省「地域づくりによる介護予防を推進するための手引き」より



地域住民や関係者が「通いの場(介護予防)」と「生活支援」を両輪とした自転車に乗り、「地域ケア会議」というハンドルで舵取りをしながら、目指すべき地域へと進んでいきます。地域の通いの場は、住民が主役として運営し、行政職員は黒子として支援することが成功のポイントとされています。※町の具体的な取り組みについては広報9月号でご紹介する予定です。

●問い合わせ先 長寿福祉課 TEL 72-3111(内線160)



海外体験をとおして自らの生き方を考え、志を持ち、チャレンジ精神にあふれ、世界で活躍できる真の国際人を育てていきます。

★九州一をめぐす 子どもたちが輝く町へ 子どもたちが輝く町へ

九州一輝くまちづくりのため様々な独自プログラムに取り組んでいます。

少年海外体験学習事業 「バンコク友好の翼」

国際社会で活躍する人材の育成

町では国際的な視野と物の見方、考え方ができる青少年の育成を図るため、旧新吉富村は平成2年度から、旧大平村は平成9年度から少年海外体験学習事業を実施し、平成26年度までに631名の小中学生が参加しました。これまででは公用語である英語の習得、なかでもコミュニケーションに不可欠な英会話力に主眼を置き、英語圏であるニュージーランドやアメリカ、オーストラリアなどの国を訪問し、現地の小学生との交流やホームステイ、文化施設などの視察研修を行ってきました。

異文化交流と相互理解

平成27年度からは地理的・経済的につながりが深く、日本と長い交流の歴史をもったアジア諸国の中から、母国語の他に公用語である英語を第1外国語として学ぶなど、英語教育の分野で日本との共通点がみられるタイ王国へ訪問先を変更しました。そして、訪問のみの一方向の交流から、訪問と受入の相互交流へ発展させ、一緒に学ぶことで互いの国の文化や歴史、生活習慣などを理解することができました。交流先の小学校はタイ王国で学力NO.1。最も古い歴史と権威をもつ、国立チュラロンコーン大学の附属小学校に決まりました。国内でチュラロンコーン大学附属小学校との相互交流を実現させた自治体は本町だけです。

姉妹校協定の締結

平成28年度に策定した町の第2次総合計画のまちづくりの基本目標に「国際交流事業の発展」を掲げています。これまで行われていた英会話力の向上をさらに発展させ、相互の交流を通じて異文化交流を推進することにより、国際社会で生きるための幅広い視野と豊かな人間性を育む機会の充実・発展に努めていきます。新たに開始したタイ王国との交流は、本年8月のタイ王国訪問時にチュラロンコーン大学附属小学校と上毛町立小学校が姉妹校協定を締結する予定です。引き続き両校間の学校交流やホームステイなどを通じて、新たな相互交流・相互理解へ交流を深めていきます。

協力団体 立命館アジア太平洋大学、福岡県バンコク事務所、タイ国政府観光庁

●問い合わせ先 教務課 社会教育係 TEL 72-3111(内線172)

